

読書

瑞穂市出身の直木賞作家豊田穰(とよだ・じょう)氏(一九二〇―一九四七)は、太平洋戦争の悲劇を見つめ、再び戦争の惨禍を招かないことを願って多くの戦記文学を残した。

豊田氏は日本集郡穂積町(現瑞穂市)出身。四三(昭和十八)年、二十三歳の時にパイロットと

県図書館に行こう

こんな情報(情報)が待っている

した。特別文庫「豊田穰文庫」は、豊田氏の遺志をついだ家族から、故人の蔵書約二千八百冊に没後収集した戦記文学関連などの資料約千七百冊を加えて、計約四千五百冊を当館へ寄贈されたもの。九五(平成

後、自らの体験を題材に

従軍体験を題材に執筆

豊田穰文庫



郷土出身の直木賞作家が残した、わが国でも有数の戦記文学コレクションの「豊田穰文庫」

した戦記小説「帰還」(『東海文学』、四九年四月)は第一回横光利一賞の次席となり、高い評価を得た。昭和四十年代になると、芥川賞候補作「伊吹山」(六七年)や直木賞受賞作『長良川』(七〇年)などの重厚な私小説的作品を発表し、作家としての円熟味を増した。

当文庫には、豊田穰氏の初出誌を含む全著作や、氏が執筆の折りに参考にした書き込み跡の残る資料など、文学史の面でも貴重な資料が多く含まれている。戦記文学のコレクションとしては国立国会図書館にも無い資料も含まれており、日本有数の規模を誇っている。